

となり、9カ月連続で前年同月実績を上回った。電炉メーカーが夏季減産に入ったこともあり、前月比では1.4%減となったが、自動車など国内製造業向け需要の好調に支えられて高水準の生産（年率換算1億850万トン）になった。転炉鋼生産は前年同月比21.6%増の731万6,000トンで9カ月連続増、電炉鋼も同16%増の190万7,000トンで8カ月連続増となった。1～7月の累計では前年同期比43.9%増の6,380万トンで、年率1億1,000万トンとピークの2007年比9割強の水準まで戻っている。

財務省が発表した7月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比3.7%増の329万7,000トンとなり12カ月連続で前年を上回ったが、前月比では約60万トン減少した。輸入は同79.1%増の61万9,000トンと7カ月連続で前年を上回った。国別輸出では最大向け先の韓国・台湾などのアジアNIE's諸国向けが113万トン（前年同月比11.0%減）と前年割れに転じたほか、中国向けも59万6,000トン（同5.0%減）と減少したが、ASEAN向けは86万9,000トン（同7.9%増）となった。アジア以外では米国向けが14万1,000トン（同76.0%増）、EU向けが9万8,000トン（同61.0%増）、中東向けが8万トン（同11.0%増）、ロシア向けが2万9,000トン（同14倍）だった。国別輸入ではアジアNIE'sからが29万1,000トン、中国からが14万1,000トン（同2.4倍）、ロシアからが2万5,000トン（同2.5倍）だった。

◆7～9月期粗鋼生産計画2,820万トン

経済産業省は鉄鋼メーカーからヒアリングした7～9月期生産計画の集計結果を発表した。計画によると粗鋼生産量は前期比微増の2,821万8,000トンで、先月末に公表した需要見通しの際の生産（2,682万トン）に比し5.2%増の約140万トン多い水準となっている。見通しより高い水準となったのは、輸出向け需要は中国の調整もあり若干減速するが、自動車、建設機械をはじめとする国内製造業向け需要が底堅く推移しているため、鉄鋼各社は当期も高めの計画を立てていることによる。国内向け鋼材生産量は前期比1.3%増の計画となっている。下期以降については、国内エコカーの減税が9月一杯で打ち切られるほか、海外では中国鉄鋼市場の動向などから不透明の要因が多い。

◆高炉4社4～6月期連結決算、黒字転換

新日本製鉄、JFEホールディングス、住友金属工業、神戸製鋼所の高炉大手4社は、2010年4～6月期の連結決算を発表したが、4社ともに前年同期の経常赤字から黒字転換した。ただし、4月からの主原料の大幅な値上がりに鋼材価格の改定が追いつかず、厳しい経営環境が続く、そろって前四半期比経常減益となった。

7～9月期には、主原料がさらに上昇する一方、前四半期にあったキャリーオーバー（前年度契約分の低価格原料の使用）効果が薄まり、好調だった輸出も減少傾向にあるなど一段と環境は厳しくなるが、中間期は4社ともに前年同期の赤字から黒字化する見込みとなっている。上期の連結経常見通しは、新日鉄が1,200億円、JFEが1,000億円、住金が250億円、神鋼が400億円で、4社合計2,850億円と前年度下期（4社合計で2,906億円）並みの利益を確保できる見通しとなっている。マージン幅は縮小するものの、販売数量増やグループ会社の収益改善などが収益確保に寄与するとしている。

2011年3月期は、新日鉄2,500億円、JFE2,200億円、住金800億円、神鋼750億円の見通しをそれぞれ示した。しかし、10月以降の主原料・鋼材価格交渉の行方が見えず、中国

の過剰生産など不安材料も多い。大きく変動する可能性はある。

表－1 高炉4社の2010年度通期連結業

(下段は上期予想、カッコ内は前年同期比、△は減または赤字)

	売上高 (億円)	経常利益 (億円)	純損益 (億円)	粗鋼 (万吨)
新日本製鉄	非開示 (34,877)	2,500 (118)	非開示 (△115)	3,200
	20,500 (15,733)	1,250 (△869)	600 (△718)	1,640
J F E	34,200 (28,443)	2,200 (692)	1,200 (456)	3,000
ホールディングス	16,200 (13,067)	1,000 (△574)	500 (△286)	14,801
住友金属	非開示 (12,858)	800 (△366)	600 (△497)	1,390
	7,200 (5,987)	250 (△476)	250 (△466)	670
神戸製鋼	19,400 (16,710)	750 (102)	450 (63)	780
	9,400 (7,881)	400 (△442)	250 (△453)	390

(注1)粗鋼は単独(住金は小倉、直江津、和歌山含む)

(注2)JFEの粗鋼はJFEスチール単独

◆台湾・中龍鋼鉄，熱延ミル増強

台湾・中国鋼鉄グループの中龍鋼鉄が、2010年4月末に立ち上げた新熱延ミル(年産300万吨)の増強計画は2012年末に完了する見通しであると発表した。既に日本メーカーと設計など交渉が進行しており、現在2基の加熱炉を3基に増強し、年産能力を400万吨に引き上げるとしている。また、2010年2月末に稼働した新1号高炉は平均日産量が7,143トン、年率換算260万吨水準であるが、今後日産7,400万吨に引き上げる方針で、年率換算270万吨にするとしている。現在建設中の新2号高炉(年産250万吨)は2012年末に完工予定とされている。また、台湾・中国鋼鉄グループの単圧メーカーである中鴻鋼鉄も9月中旬に熱延ミル増強工事を開始し、約1カ月の工期で品質向上による高付加価値化に加えて年産能力を約20万吨増の280万吨に引き上げる。

◆世界粗鋼生産，2カ月連続減

世界鉄鋼協会(WSA)のまとめによると、7月の世界粗鋼生産量(66カ国)は前年同月比9.6%増の1億1,479万吨となり10カ月連続で前年同月実績を上回った。ただし、中国の伸び率が2%強だったこともあり、全体の伸び率も1ケタに止まった。さらに、前月比でみると、3.0%減(中国が同3.8%減の5,174万吨、中国以外が同2.4%減の6,305万吨)で2カ月連続の減となった。日産量は6.1%減と2カ月連続して減少した。操業率は75.1%と前月の80.4%から5.3ポイント低下し、1月以来の80%割れとなった。日産量は中国が6.9%減と3カ月連続で、中国以外でも5.5%減と2カ月連続して減少した。66カ国生産は2010年に入って3月、5月と月間最高を記録したが、6月、7月は後退した。中国の生産も3、4、5月と月間最高を更新した後、6、7月は減少しており、7月実績は最高だった5月比で7.8%減少した。中国以外の生産は、2008年5月のピークを回復しておらず、最近もっとも生産量の多かった2010年5月でもピーク比8.6%減だった。

2010年1～7月実績累計では、66カ国で8億2,097万吨と前年同期比25.0%と増加した。中国は18.2%増、中国以外は27.8%増だった。ただし、水準の高かった2008年1～7月に比べると、66カ国では0.5%増、中国では21.7%増となっている。中国以外では同12.4%減少している。EU27は18.3%減、北米は19.4%減と落込みが大きかった。 □